

特集

# 自分のこと、守れますか？

## ～災害に「災害後」はない、いつも「災害前」～

災害時、被害を最小限に抑えるためには「自助」「共助」「公助」が重要です。

**自助**… 自分や家族の命を自分たちで守るための行動や備え

**共助**… 地域を自分たちで守るための行動や備え

**公助**… 市が行う防災・減災対策や応急対策

市では、「公助」の強化を図り、日頃から防災体制の整備や備蓄の確保などに努めています。しかし、災害時は「自助7割、共助2割、公助1割」といわれ、減災には「自助」と「共助」がとても重要です。

湖南市は災害の少ない地域ではありますが、いつ起こるかわからない万一の時に備えて、避難や備蓄品について確認しておきましょう。

☎危機管理・防災課(東庁舎)  
☎71・2311 ☎72・2000

(平成25年台風18号による被害(三雲地先))

※避難するよりも自宅に留まっているほうが安全な場合は、無理に外に出る必要はありません。かえって危険を伴う場合があります。

### ③避難指示

状況がさらに悪化し、災害による人的被害の危険性が非常に高まった場合や人的被害が発生した場合に発令。避難勧告よりさらに強い強制力を持ちます。

### ②避難勧告

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合に発令。発令された地域の全ての人は指定された避難場所に避難してください。

### ①避難準備情報

避難勧告や避難指示を行うことが予想される場合に発令。避難に時間がかかる高齢者や障がい者などいわゆる災害弱者(要援護者)とその支援者に早めの避難を促します。

## 正しく知っていますか？ 避難に関する 3つの情報

市からは、災害の状況に応じて3つの情報を発令します。市民の皆さんは各状況に応じて避難行動をとってください。

## 市からの情報発信

- 市内に87か所ある防災行政無線
- 携帯電話(NTTドコモ・au・ソフトバンク)に避難情報が強制的に送信できる緊急速報メール(エリアメール)
- 湖南タウンメールの緊急情報(登録者のみ)
- 消防団車両や市の広報車による呼びかけ
- 区(自治会)への緊急連絡網による直接連絡
- 滋賀県メール配信サービス(しらしがメール登録者のみ)
- 災害情報共有システム(NHKデータ放送、ヤフーなど)

## 湖南タウンメールの登録はお済みですか？

災害時、市からの緊急情報を湖南タウンメールで配信しています。登録がまだの人はぜひ登録してください。

インターネットで湖南タウンメールのトップページ(<http://www.konan.town-mail.com>)に接続し会員登録をしてください。

携帯・スマホでの登録はこちらから



## 地域防災力を高める

石部南区まちづくり協議会

災害時に大切なのが地域でのつながりです。平成7年の阪神・淡路大震災では地震によって倒壊した建物から救出された人の約8割が家族・友人・隣人などに救出されたという調査結果もあり、互助の重要性が見直されるようになりました。

今回は、地域防災力の向上について先進的な取り組みを行っている石部南区まちづくり協議会の大島会長にお話を伺いました。



石部南区まちづくり協議会 大島 正秀 会長

### 石部南区まちづくり協議会の取り組み

石部南区まちづくり協議会では「学区内5つの区(地域)」が共同で何かできることはないかと議論した結果、「防災に取り組みよう」ということになりました。「防災運動会」や「ふれあい防災ウォーク」など子どもから大人まで楽しみながら防災について考えられるイベントを企画しました。



▲防災運動会

### 災害時に大切なのは、普段からのコミュニケーション

災害の時だけ地域がまとまるといのは難しい。普段の清掃活動や行事で一緒に活動、

し、みんなが顔見知りになっていることで、いざという時もスムーズに連携ができると思います。

避難場所については普段から口酸っぱく言っています。

### 災害は忘れたころにやってくる

平成25年の台風18号の際には阿星山で大きな被害がありました。「災害は忘れたころにやってくる」。その思いから淡路市や佐用町、宇治市など、災害を体験したところへの研修を毎年行っています。

大切なのは、自分の命を守るための「判断力」

湖南市は災害の少ない地域ですが、過去の被害を忘れず、学区内の危険箇所や自分の避難先はどこか、台風や地震が起こった時に何に頼つたらよいか、を知っておくこと大切です。住民にも

最初は「自助」、次に「共助」、最後に「公助」。これは当たり前ですが、災害が起こった直後に自分の命を守るのには、自分自身です。市民一人ひとりが防災時の「判断力」を身に付けておかなければならないと考えています。

もしもの時は市と地域が連携して対応しなければならぬので、市内全学区が集まったの合同防災訓練をやる必要があると思います。

避難訓練は、「自分の命を守るための訓練」です。固く考えすぎず、楽しく「防災」に取り組んでいきたいです。

民にも



▲台風18号で被害のあった阿星山



確認  
しよう!

# 準備しておくと防災グッズ・避難場所

非常持出品

すぐに持ち出せるように準備しておきましょう



- 持ち出し袋(リュックタイプの袋がおすすめです)
- 現金
- 車や家の予備鍵
- 予備のめがね、コンタクトレンズ
- 身分証明書(運転免許証、パスポートなど)、印鑑
- 携帯電話、充電器
- 筆記用具
- 非常食、飲料水
- 防災ずきんかヘルメット
- 懐中電灯、予備電池
- 笛やブザー(音を出して居場所を知らせるもの)
- マスク
- ビニール袋
- スリッパ
- 雨具
- 簡易トイレ
- 救急セット、薬
- タオル
- 着替え
- ウェットティッシュ
- 衛生用品(紙おむつや生理用品)

食料品備蓄

災害備蓄用の長期保存可能な食料などを備えておくのが理想ですが、普段食べているものを多めに買い置きし、期限が切れる前に古い順から食べ、減った分を買い足す方式がおすすめです。廃棄が出ないので、環境にも優しい方法です。

災害時の不安がストレスとなり、食欲もなくなることもあるので、災害食は普段から食べ慣れたおいしいものを用意しておきましょう。



避難所・家族との連絡方法

区、自治会などの地域の一時避難場所、市の指定避難所に加え、避難経路もあわせて確認しておきましょう。

世帯ごとに避難方法が異なるので、市が配布している防災マップや県が作成している防災情報マップなどを参考に、適切な避難行動をとれるよう、家族や地域で周辺の危険地域を確認しておきましょう。

また、災害時に家族と合流できるように、集合場所や連絡方法をあらかじめ決めておきましょう。



## 10月2日(日) 湖南市総合防災訓練を行います

午前8時に防災行政無線の放送や湖南タウンメール、緊急速報メールなどを配信します。ご理解ご協力をお願いします。

- 日時 10月2日(日) 午前8時~11時30分
- 場所 市役所東・西庁舎、共同福祉施設(サンライフ甲西)、各まちづくりセンター、石部防災センター、市民学習交流センター(サンヒルズ甲西)など

## 市の防災対策

### ●緊急時は防災行政無線のサイレンを吹鳴します

避難勧告避難指示の緊急情報が発令される場合には、防災行政無線のサイレンを吹鳴し、お知らせします。

また、武力攻撃時の避難指示などについて、国から配信、放送される場合は、防災行政無線の電子サイレン・音声で情報を発信します。

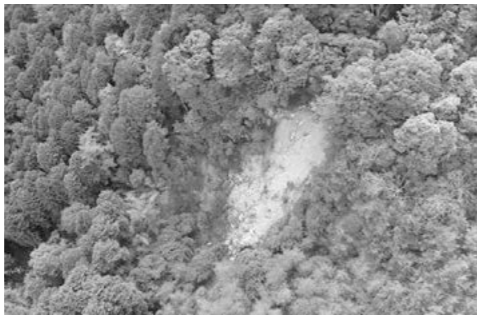
### サイレンパターン

サイレン(30秒)と休止(5秒)を3回繰り返す

サイレン	休	サイレン	休	サイレン	休
(30秒)	(5秒)	(30秒)	(5秒)	(30秒)	(5秒)

### ●ドローンの活用

熊本地震では、土砂災害発生場所や熊本城の被害状況調査などでドローンが用いられ、人が立ち入ることが困難な場所で活躍しました。



▲ドローンによる空撮写真

### ●防災倉庫の設置

市内の小中学校やまちづくりセンターなどに防災倉庫を設置しています。災害時の初動対応に必要な資機材や、避難所開設時に必要な毛布や備蓄食料を保管しています。

また、小中学校の防災倉庫は「災害時トイレタイプ」という仕様で、収納品を全て出すとトイレスペースとして使用できる倉庫です。今年度は石部小学校、平成29年度には甲西中学校に設置予定で、市内小中学校全13校への設置が完了します。



### ●お手伝いバンダナ

LLP(有限責任事業組合)ユニバーサルデザイン企画様からお手伝いバンダナ300枚を寄贈いただきました。

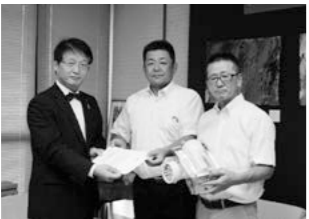
大勢が出入りする避難所で「援護する側」と「援護される側」を明確にアピールすることができるとが、活用させていただきます。



### ●LED強力ライト

滋賀県電気工事工業組合様からLED強力ライト50個を寄贈いただきました。

避難所や災害対策本部、消防団活動などに活用させていただきます。



## 10月9日は「湖南市防災の日」

湖南市では宝暦6(1756)年10月9日に「妙感寺流れ」と呼ばれる大災害が発生しました。この大規模災害を風化させることなく後世の市民に継承し、安全で安心なまちづくりを推進するため「湖南市防災の日」を条例で定めています。

災害はいつ私たちに襲ってくるかわかりません。

4月に発生した熊本地震は、30年以内に大きな地震が起きる確率は1%未満とされていた地域での発生となり、日本中に衝撃を与えました。

災害発生時に被害を最小限に抑えるためには、日頃から防災意識を高め、災害に対する備えが必要不可欠です。

市としても自助(自分)、共助(地域)、公助(市・県・国)の役割を明確にし、減災への体制を整えていきます。